



大城弘明写真集『地図にない村』より

オーラルヒストリーの可能性 —歴史学と民俗学との対話

—沖縄戦から祖国復帰へ—

日時：2011.10/29(土) 10:30-17:30

会場：神奈川大学 横浜キャンパス 1号館8階 804会議室

主催：神奈川大学日本常民文化研究所

沖縄戦集団自決に関する裁判、歴博展示問題、普天間基地移設をめぐり、沖縄と本土の関係をどう考えるかは現代的焦点となっています。そこでオーラルヒストリーの可能性をめぐって、歴史学の聞き取り・聞き書き、民俗学の口述・口承のもつ意義について、それぞれのアプローチから沖縄論を展開できればと思います。

基調報告

中村政則 沖縄戦と民衆

石原昌家 沖縄戦・米軍占領のオーラルヒストリー —証言をどう読むか—

各論

—沖縄戦から祖国復帰へ—

■安田常雄 復帰と反復帰 —川満信一と『発想』の位置—

■小熊 誠 綱引行事の消滅と復興 —沖縄県宜野湾市の事例から—

■泉水英計 コンタクト・ゾーンとしての占領地沖縄

[コーディネイト・司会] 森 武麿 (神奈川大学日本常民文化研究所所員)

オーラルヒストリーの可能性

— 歴史学と民俗学との対話 — 沖縄戦から祖国復帰へ —

講師紹介

●中村 政則 (日本常民文化研究所客員研究員、一橋大学名誉教授)

1935年東京生まれ。日本近現代史。『近代日本地主制史研究—資本主義と地主制』東京大学出版会、1979年、『昭和の記憶を掘り起こす—沖縄、満州、ヒロシマ、ナガサキの極限状況』小学館、2008年、『オーラル・ヒストリーの可能性—東京ゴミ戦争と美濃部都政』(神奈川大学21世紀COE研究成果叢書—神奈川大学評論ブックレット、2011年)他。

●石原 昌家 (沖縄国際大学名誉教授)

1941年、台湾に生まれ、戦後首里に戻る。社会学。著書『証言・沖縄戦—戦場の光景—』(青木書店、1984年)、『空白の沖縄社会史—戦果と密貿易の時代—』(晩聲社、2000年)、『争点研究・沖縄戦の記憶』(共著、社会評論社、2005年)他。

●安田 常雄 (神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究所非常勤講師、国立歴史民俗博物館特別客員教授・前副館長)

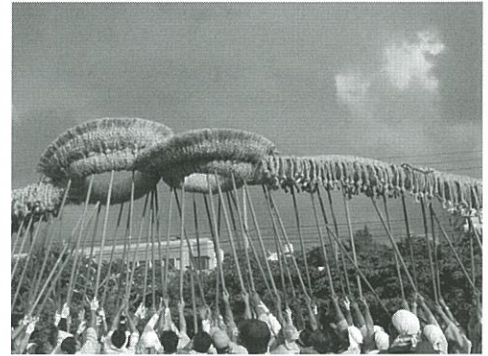
1946年東京生まれ。日本近現代思想史。『戦後経験を生きる』(共編、吉川弘文館、2003年)、『暮らしの社会思想』(勁草書房、1987年)、『出会いの思想史—渋谷定輔論』(勁草書房、1981年)、『日本ファシズムと民衆運動』(れんが書房新社、1979年)他。

●小熊 誠 (神奈川大学日本常民文化研究所所員)

1954年横浜市生まれ。民俗学。沖縄を中心に日本本土、中国など東アジアにおける民俗の比較研究。「沖縄の村落移動と風水—村落史の記憶と歴史的事実—」(『歴史と民俗』27、2011年)、『日本の民俗12 南島の暮らし』(共著、吉川弘文館、2009年)、『風葬から火葬へ—沖縄における葬儀の変遷—』(『アジア遊学』2009年)他。

●泉水 英計 (神奈川大学日本常民文化研究所所員)

1965年千葉生まれ。社会人類学。「沖縄の地誌研究—占領期アメリカ人類学の再検討から」坂野徹・愼蒼健(編)『帝国の視角/死角—<昭和期>日本の知とメディア』(青弓社、2010年)、『極東の『フロンティア』—米国人歴史家が語る冷戦期の琉球と台湾』(『歴史と民俗』26、2009年)他。



大山のアギエー



普天間基地内の拝所

- お申し込み 「10月29日(土) 常民文化研究講座 参加希望」を明記の上、
① 郵便番号 ② 住所 ③ 氏名 ④ 連絡先電話番号を記載し、
FAXまたは葉書にて、**2011年10月24日(月)まで**にお申し込み下さい。
 - 定員 100名(定員に達し次第締め切らせていただきます)
 - 参加費 無料
 - 宛先 〒221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学日本常民文化研究所
第15回常民文化研究講座 宛 **FAX. 045-413-4151**
 - お問合わせ 神奈川大学日本常民文化研究所 TEL. 045-481-5661(代)(内線4358)
- ※お申し込みの際にいただいた個人情報は講座の実施・運営にのみ使用いたします。

【神奈川大学横浜キャンパス】交通アクセス

- ① 東急東横線白楽駅下車 徒歩13分または
- ② 横浜駅西口バスターミナルから横浜市営バスを利用
1番乗場36系統 菅田町または緑車庫行 神奈川大学入口下車 または
1番乗場82系統 八反橋または神大寺入口行 神奈川大学入口下車

※駐車場がありませんので、自家用車の利用はご遠慮ください。

